

「競う ～互いに競い、自分を磨く。～」をテーマに、全国の地域伝統芸能が集結！

『第21回地域伝統芸能まつり』開催！

会期：2021年2月21日(日)／会場：NHKホール(東京・渋谷)

＝インターネットで観覧者を募集(無料)＝

【応募締切】2021年1月31日(日)

地域伝統芸能まつり実行委員会および、一般財団法人地域創造は、全国の地域伝統芸能・古典芸能が一堂に会する『第21回地域伝統芸能まつり』を、2021年2月21日(日)にNHKホール(東京都渋谷区)で開催。同催事の観覧者をインターネットにて募集します(観覧無料／募集人数900名、応募多数の場合は抽選)。

■観覧無料／インターネットで観覧者を募集

観覧をご希望の方は、「地域伝統芸能まつり」ホームページ(<https://www.jafra.or.jp/project/regional-performing-arts/matsuri/2021/>)より、申込フォームにてご応募ください。【応募締切：2021年1月31日(日)午後11時59分】※往復はがきでの応募は受け付けておりません。

■伝統芸能の継承、地域活性化を目的に開催

「地域伝統芸能まつり」は、日本各地で脈々と受け継がれてきた祭りや芸能を保存、伝承し、地域の活性化を図る取り組みとして、2001年より開催。これまでに全国各地の祭事・芸能190演目を紹介してきました。

■今年度のテーマは「競う」

第21回となる今年度は、「競う ～互いに競い、自分を磨く。～」をテーマに実施。地域文化の伝承に取り組む人々の熱意や、先代から受け継がれてきた伝統と技の競い合いを、多彩な演目を通じて感じていただくとともに、各地の風土や日本文化の素晴らしさを再発見し、郷土に親しみと誇りを持つきっかけになることを願っています。また、メインビジュアルは、竹取物語のかぐや姫に難題を課され、競わされた殿方たちをデザインすることで、今回のテーマである「競う」を表現。竹取物語のように知恵を使い、新型コロナウイルス感染症を乗り切ろうというメッセージも込められています。

■秋田市や今治市、読谷村など6地域による多彩な演目を披露

地域伝統芸能まつり実行委員会が選出した「秋田竿燈まつり」(秋田県秋田市)、「江戸火消しの梯子乗り」(東京都)、「三島囃子」(静岡県三島市)、「阿波おどり」(徳島県徳島市)、「一人角力」(愛媛県今治市)、「座喜味棒術」(沖縄県読谷村)の地域伝統芸能6演目に加え、テーマに所縁の深い古典芸能として、能「舍利」(観世流)を実演します。

※新型コロナウイルス感染症の感染状況や、荒天などの影響により公演を中止する場合があります。また、各地域の感染状況や移動制限などにより、ご来場をお控えいただくことがあります。最新の開催情報は、地域伝統芸能まつりのホームページなどでお知らせします。

※ご来場時、また会場内では必ずマスクを着用し、咳エチケット、手指の消毒など感染予防にご協力ください。



【本件に関する報道関係の皆様からのお問い合わせ先】

「地域伝統芸能まつり」広報事務局(株式会社ジェーワン)

dentou@jone.jp

【紙・誌面、WEB サイト等にご掲載いただく際の一般の皆様からのお問い合わせ先】

ハローダイヤル 050-5541-8600(全日 8:00～22:00)

『第 21 回地域伝統芸能まつり』開催概要

- テーマ：「競う ～互いに競い、自分を磨く。～」
- 日 時：2021 年 2 月 21 日(日) 13:30 開演(12:30 開場)
- 会 場：NHK ホール(東京都渋谷区神南 2-2-1)
- 主 催：地域伝統芸能まつり実行委員会／一般財団法人地域創造

<ご参考>

「第 19 回地域伝統芸能まつり」の様子
(2019 年 2 月実施)



- 【地域伝統芸能まつり実行委員会】※50 音順
 鎌田東二(上智大学グリーンケア研究所 特任教授／京都大学 名誉教授)
 香山充弘(一般財団法人地方債協会 会長)
 黒田武一郎(総務省 事務次官)
 下重暁子(作家)
 田村孝子(公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長)
 山本信一郎(一般財団法人地域創造 理事長)
 山本容子(銅版画家)
 若泉久朗(日本放送協会 理事)

■後 援：総務省／文化庁／観光庁／NHK

■協 力：日通旅行株式会社

■入場料：無料(応募当選者)

■募集人数：900 名

■応募方法：**「インターネット」にて受付**

地域伝統芸能まつりHP(<https://www.jafra.or.jp/project/regional-performing-arts/matsuri/2021/>)より、
 申込フォームにてご応募ください。

* 今回、往復はがきでの応募は受け付けておりません。

* ご応募いただいたお客様の個人情報は、本催事の抽選、当・落選告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的で使用させていただきます。また、お客様の事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩しません。

■応募締切：2021 年 1 月 31 日(日) 午後 11 時 59 分

* 当落結果は、2月上旬に応募者全員にメールにて通知いたします。

* 当選者には入場整理券を2月10日頃に発送いたします。なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、お客様同士の間隔をとった座席を、入場整理券で事前に指定させていただきます。

* 公演後、会場にて新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる事象が発生した場合、必要に応じて保健所、自治体等の公的機関へご来場の方の情報を開示する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■プログラム(予定)：

	名称または演目	地域または演者
1	秋田竿燈まつり(あきたかんとまつり)	秋田県秋田市
2	一人角力(ひとりずもう)	愛媛県今治市
3	座喜味棒術(ざきみぼうじゅつ)	沖縄県読谷村
4	江戸火消しの梯子乗り(えどひけしのはしごのり)	東京都
5	能「舍利(しゃり)」「観世流」短縮版	出演:坂井音重 他
6	三島囃子(みしまばやし)	静岡県三島市
7	阿波おどり(あわおどり)	徳島県徳島市

※演目は変更される場合もあります。予めご了承ください。

■一般問合せ先：ハローダイヤル 050-5541-8600 (全日 8:00~22:00)

『第 21 回地域伝統芸能まつり』 各演目の紹介

＝地域伝統芸能＝

◆秋田竿燈まつり(あきたかんとまつり) [秋田県・秋田市]



江戸時代中期、お盆を前に邪気や病魔を払い、身を清める「ねぶり流し」と、五穀豊穡の願いを込め、提灯を米俵に竿燈全体を稲穂に見立てて練り歩いたことが由来とされています。現在は、8月3日～6日の4日間、竿燈大通りを会場に開催されています。各町内や、各種団体重さ約50キロの竿燈を手のひら、額、肩、腰などに乗せて、次々に差し手による妙技が披露されます。今日では、各種団体・企業から280本を超える竿燈が出竿されて、その風情はまるで風にそよぐ黄金の稲穂のようです。

◆一人角力(ひとりずもう) [愛媛県・今治市]



毎年春の御田植祭と、秋の抜穂祭において、大山祇神社で行われる相撲神事です。目に見えない稲の精霊と相撲を取るため一人角力といわれます。「稲の精霊」と「一カ山」による三本勝負で行われ、稲の精霊が2勝1敗で勝つことで春には豊作が約束され、秋には収穫を感謝するという意味があります。その歴史は650年以上に遡るといわれ、一時は途絶えるも、地元の奉仕者の尽力により平成11年に復活を果たしました。愛媛県指定無形民俗文化財。

◆座喜味棒術(ざきみぼうじゆつ) [沖縄県・読谷村]



座喜味棒術の起源は、座喜味城主護佐丸公の時代に遡るといわれており、約500年の歴史があります。沖縄各地には様々な棒術が伝わっていますが、座喜味棒は実戦型であることが特徴です。6尺棒と3尺棒を自在に操り、常に相手の急所を狙って攻める戦いは、緊迫感と様式美に溢れています。座喜味棒保存会は1975年に設立され、県内での演武はもとより、東京、ブラジル、ハワイ、韓国、台湾など国内外でも技を披露してきました。現在は、後継者育成を目的に子ども会へ指導者を送り、継承発展に努めています。

◆江戸火消しの梯子乗り(えどひけしのはしごのり) [東京都]



消防出初式は、年明けの恒例行事として各地で行われています。今日では様々な消防演技が披露される中であって、「纏振り」や「梯子乗り」、「木遣歌」は、江戸時代の町火消の心意気を今に伝えています。梯子乗りの起源は定かではありませんが、消防出初式の元祖といわれる上野東照宮前の「出初」に由来すると伝えられています。現在、各自治体の消防出初式において演じられる梯子乗りは、主に消防団員が行っていますが、東京消防出初式では、「江戸消防記念会」がその技を保存、伝承しています。

◆三島囃子(みしまばやし) [静岡県・三島市]



三島囃子は、天文年間(1532～1554年)の頃、三島明神の神領内の若者たちに伝えられた「お囃子」と、江戸時代に西と東の文化が混ざり独自に発展した「しゃぎり」の総称です。8月の「三嶋大祭り」では、当番町の山車引回しを中心に大通りに10数台の山車が並ぶ「山車シャギリ大会」などが行われ、市内中に三島囃子の音色が響き渡ります。中でも「競り合い」は町内ごとの山車が対面したときなどに競い合って行う勇壮な演奏で、この祭りのハイライト的な存在であり、三島の夏の風物詩ともなっています。

◆阿波おどり(あわおどり) [徳島県・徳島市]



阿波おどりは 400 年を超える歴史を持つといわれる、徳島が世界に誇る伝統芸能です。期間中は街中に軽快な音色(ぞめき囃子)と情感あふれる「よしこの」が響き、踊り子や見物客の身も心も弾みます。自由な民衆娯楽として大きく開花した阿波おどりは、東京・高円寺、埼玉・南越谷をはじめ全国各地に根付いたうえ、度々海外公演も開催されるなど、今や世界的にもその名を知られています。

=古典芸能=

◆能「舍利(しゃり)」(観世流) 短縮版

韋駄天が登場する能「舍利」をお楽しみいただきます。NHK 大河ドラマのタイトルともなった「いだてん」とは足の速い人のことを言いますが、本来は仏殿などを守護する足の速い神様のことです。その韋駄天が仏舍利、つまりお釈迦様の遺骨を奪った鬼を捕まえたとの伝説があります。旅の僧が都・泉涌寺で舍利塔を拝んでいると、怪しい男が現れ舍利塔を奪い逃げていきます。僧が祈ると韋駄天が現れ、犯人の足疾鬼を追いかけ舍利塔を取り戻します。足疾鬼と韋駄天のスピード感のある舞台が展開します。出演:坂井音重、他

『第 21 回地域伝統芸能まつり』開催にあたって

「地域伝統芸能まつり」は、日本各地に脈々と受け継がれてきた芸能を保存・伝承し地域の活性化をはかる取り組みです。各地の伝統ある催事や古典芸能が集まり、個性を披露する新たな“祭”が、日本文化の素晴らしさを再発見し、郷土に親しみと誇りを持つ契機となることを願っています。

21 回目を迎える今回のテーマは「競う」。地域文化の伝承に取り組む人々の熱意や、先代から受け継がれてきた伝統や技を競い合う姿をたっぷりごらんいただき、その歴史や地域性の一端に触れていただきたいと思います。

地域伝統芸能まつり実行委員会

一般財団法人地域創造について

一般財団法人地域創造は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを目的として、全国の地方団体等の出捐により 1994 年に設立されました。

財団事業として、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成や、公立文化施設の活性化を図るための各種支援事業(音楽・ダンス・演劇・邦楽・美術・助成)など、多彩なプログラムを実施しています。